

NPO法人 リカバリーサポート・ネットワーク(RSN、西村直之代表理事)は11月11日(水)、パチンコ依存問題にかかわる医療・保健・福祉分野の援助職者、司法・金融相談関係者、ホール関係者を対象にした研修講座「ギャンブル問題介入の基礎」を、滋賀県の草津市役所市民交流プラザで開催した。



リカバリーサポート・ネットワーク 研修講座 「ギャンブル問題介入の基礎」開催

グループワークで依存問題の事例と向き合う



RSNでは昨年からはパチンコ依存問題への介入方法や対応のノウハウを広めることを目的とした研修講座を開催している。今回は滋賀県精神保健福祉協会との共催で開催

され、近畿圏から精神保健福祉センターのカウンセラー、消費生活センターの職員、企業の人事担当者や保健士等33名が参加した。

■ギャンブル問題関連問題のとらえ方—評価とマネジメントの基礎

西村代表から、パチンコ依存問題を含む「病的ギャンブル」の医学的な評価方法と介入の基本について、依存問題を抱える本人や家族へのヒアリングを通じて、目に見える状況だけでなく様々な観点から問題を分析し、医療機関と回復支援施設、相互援助グループ、司法関係者等が連携し介入する必要がある、との解説があった。

■ギャンブル問題へのめりこみとその対策—正しい理解と対処法

強迫的ギャンブラーの

回復支援施設「ワンダーポート」理事長で司法書士の稲村厚氏から、ギャンブル問題によって発生した債務を整理するときの注意点、家族がどのように介入し回復につなげていくかについて解説があった。

■ギャンブル問題の整理と対応を事例から考えるグループワーク
講義に続いて、参加者が7人ほどのグループに分かれて、事例研究を行うグループワークが行われた。

今回取り上げた事例は、ふたりの子どもを持つ33歳の妻からの「36歳の夫のパチンコ依存による借金をなんとかしてほしい。何度か借金の整理をしたにもかかわらず借金を繰り返し、職場や家庭内でも問題行動を続けている。」というもの。

まず、この事例に隠された問題とその影響について、「対象者本人の心理・精神状態」「お金」「法律」「家族間」「就労」の視点からグループごとで意見をまとめ、発表した。引き続き、参加者がそれぞれの立場で相談者や依存問題を抱える本人、家族に対してどのようなアドバイスや介入ができるのか意見交換を行い、この事例については、

- まず相談者本人のDV・虐待問題に介入する
- 相談者とともに、子どもの身の安全を守る
- 精神医学的な見立てを、依存問題を抱える本人に対して行う

●相談機関、医療機関等、依存問題で関わる諸機関が連携し、問題解決に取り組む

●相談者に対し依存問題の知識や相談機関、受けられる行政サービスなど正確な情報を提供する
以上5点に留意して介入を進めていくこと、とりわけもっとも弱い立場である子どもの安全を最優先で確保していくことを確認した。

講義終了後も、講師を務めた西村氏、稲村氏に対して多くの質問が寄せられるなど、参加者の依存問題への関心の高さがうかがえ、非常に有意義な研修となった。

RSNでは、今後も全国各地で、依存問題への理解を深めてもらうための研修講座を積極的に開催していく方針である。



フンダーポート
稲村 厚理事長



リカバリーサポート・ネットワーク
西村直之代表理事